

10th Anniversary Geibun

富山大学芸術文化学部創設10周年記念事業

—「芸文10年展」と「芸術文化都市高岡を考える“つままフォーラム”」—

富山大学芸術文化学部創設10周年記念事業実行委員長 林 暁 学部長 武山 良三



■「芸文10年展」と茶室「貴想天蓋庵」

富山大学芸術文化学部が創設から10年を迎えるにあたり、「富山大学芸術文化学部創設10周年記念事業」と銘打って平成28年3月17日～25日の9日間、教員・卒業生の作品展示やフォーラムを行いました。学部長から筆者がこの件の取りまとめ役としての依頼を受け、平成27年6月より、実行委員の協力を得て草案作りを始めました。

10年前の学部創設を記念した「工芸都市高岡 伝統と革新展」では、教員が地元の企業や職人とコラボレーションして作品を作り展示するという企画で行われました。各分野にわたって多彩で挑戦的な取り組みがなされ、芸術文化学部の理念を展覧会という形で示すことができたと考えています。その中で、貴志雅樹教授（平成27年2月に惜しまれながら亡くなられた）が三協アルミニウム工業株式会社（当時）の協力を得て制作された茶室は、二畳台目の全てがアルミ製の組み立て式で、新設された造形建築科学コース（現在は建築デザインコース）の立ち上げを象徴する作品となりました。芸術文化学部10年間の礎を築いた貴志先生の遺徳を偲ぶと同時に、これからの十年を展望し、本学部の望むべき方向性を示すものとして、北陸地域でも盛んで日本文化の核ともいえるお茶の文化を記念行事の中心に据えました。10年目のトライアルとして、もう一度取り組んでみたいと考えたことが今回の記念展の企画の発端です。

教員作品と、この10年間に高岡キャンパスで学び卒業・修了して行った学生たちの優秀作品とを展示し、茶室やその周辺で茶会を催して来場されるお客様をもてなすことができると考えました。企画当初は、まったく新しい茶室の制作にかかることも考えていました。しかし、幸いな事に貴志先生の制作した茶室が倉庫の中に遺されていたことから、諸々の事情を考慮してこの茶室をリノベーションすることにしました、創設10周年記念事業のテーマである「伝統と革新」に沿った形に改修して、企画展示の核としました。

具体的には、実際に茶会を催すにあたってより使い勝

手のよいように床と出入り口のレイアウトを整え、壊れかけていた構造部を強化することが改修の手始めとなりました。制作に関しては、できるだけ本学部のリソースを活かす意味で多くの先生方や学生たちの協力・参加を仰ぎながら、大学の設備を有効活用してなるべく外注せずに作りました。貴志先生の思いが詰まった茶室に、四基のプロジェクターを吊るための天蓋を設けたことから「貴想天蓋庵（きそうてんがいあん）」と名付けました。

展示期間中の3月23日は、本学の学位記授与式にあたり、卒業生をはじめ保護者や来賓の来場がありました。一部の方には、立礼でしたがお茶も振舞いました。翌日24日、最終日である25日は、本学部の前身である高岡短期大学の卒業生で、茶道裏千家の小泉昇氏に亭主を依頼して、「貴想天蓋庵」での茶会を催しました。期間中には、貴志教授夫人の光代氏が来学され、リノベーションした茶室でお茶を差し上げることが出来、大変に喜んで頂けた事が何より嬉しいことでした。平行して富山県淡交会の方々や本学の茶道部、事務職員の協力を仰いで立礼でのお茶を振舞いました。

25日には10周年記念のフォーラムが催され、高橋正樹高岡市長、橘慶一郎衆議院議員をはじめとする本学部の創設に係わる来賓の方々を招いて茶会を行いました。フォーラムに来場された多くの方々には作品を御覧頂き、お茶によるおもてなしが出来ました。ちなみに使用した茶碗をはじめとする道具類は、多くを本学教職員の制作したものを用いました。

今回リノベーションしたアルミの茶室が、芸術文化学部が目指す「伝統と革新」を体現して、我が国の芸術文化の新たな座標を発信できる装置になることを、このプロジェクトに関わった者一同、心から望んでいます。また、今回の制作において、専門性の異なる教職員が、それぞれの思いや夢を重ね合わせながら一つの価値を作り上げられたことは、これからの芸術文化学部の将来を展望する上で、大きな意味を持つと考えています。（林暁）



■「芸術文化都市高岡を考える“つままフォーラム”」

富山大学芸術文化学部では、創設時より高岡市と連携した事業を通して教育・研究を推進してきました。平成23年度～26年度は、概算要求の特別経費を獲得して、「芸術文化を起点とした実践的教育モデルの構築（愛称「つままproject」）」を実施、中心市街地に「芸文ギャラリー」を設置して展示・交流事業を行う他、市内金屋町全体を美術館に見立てた「金屋町楽市inさまのこ」、「工芸都市高岡クラフトコンペ展」の開催に合わせたイベント「高岡クラフト市場街」などを行って来ました。

つままprojectでは、高岡を「芸術や文化の雰囲気香るまち」にすることを目標に、関連の地域資源を再評価すると共に、それらをより魅力的にするプロジェクト「高岡芸術文化都市構想」を企画しました。平成23年度から4年間、『高岡芸術文化都市構想 都萬麻』を出版して、このテーマに取り組んで来ました。

創設10周年記念事業のフォーラムでは、これらの動きを受けて「芸術文化都市高岡を考える“つままフォーラム”」と題して開催しました。創造都市研究の第一人者である同志社大学の佐々木雅幸教授の基調講演後、高橋正樹高岡市長、遠藤俊郎富山大学長及び芸文ギャラリーの店長を務めた羽田純氏（高岡短期大学専攻科修了生）、卒業生である万波智美氏パネラーとして、ディスカッションを行いました。プレゼンテーションでは高岡キャンパスで学んだ若い2名が、芸術文化の担い手として社会にしっかり入り込んで働いている姿が確認でき、学生を送り出した側としては大いなる励みになりました。

芸術文化は、趣味的に捉えられる事が多く、産業やまちづくりとは距離があるように考えられがちですが、生活に必要なものが何不自由なく手に入るようになった今日、より魅力的な物事をつくりだしていくことが求められています。芸術文化は、そのために不可欠な要素となるものです。まだ10年。しかし、濃密な10年間の取り組みを通して、学部理念に対する手応えは十分です。卒業生が次の人材を育てる立場になるまで、決してブレずに取り組んで行きたいと思います。（武山良三）

〔実行組織〕

実行委員長	林 暁
副委員長	内田 和美
作品出品	芸術文化学部教員、卒業生選抜
会場展示	大熊 敏之、横山 天心
作品パネル	高橋 誠一
フォーラム	武山 良三
印刷物	大熊 敏之、沖 和宏、武山 良三
茶室設計	上原 雄史
茶室制作	
躯体	中村 滝雄、林 暁、内田 和美、 上原 雄史、内藤 裕孝、砺波 浩二、 学生有志
床板	小松 研治
炬縁	小川 太郎
茶室制作協力	三協立山株式会社 株式会社 赤井建設
建具	堀田盛喜堂
表具	岡峰畳店
茶道具制作	
掛軸	高島 圭史
茶釜	畠 春斎
茶器	林 暁
茶碗	後藤 敏伸、教職員有志
予算管理	小松 裕子
予定管理	大氏 正嗣
映像制作	西島 治樹、内田 和美、学生有志
茶会点前	小泉 昇
茶会進行	富山淡交会、教職員有志、大学茶道部